



北里柴三郎・野口英世

1 ねらい

明治の中頃から、医学などの分野で国際的に活躍した人物について調べ、医学などの研究の成果が世界に認められ、国際的な地位の向上につながっていったことに気づかせる。

2 授業の流れ

1 導入・視聴前のポイント (10分)

- ・条約改正までの道のりを年表で振り返り、日本が不平等条約を改正し、欧米と対等な関係を築いていったことを確かめる。
- ・明治維新以後の変化を振り返り、外国が日本を認めた理由について話し合う。
- ★産業や軍事力だけでなく、政治、教育なども大きな変化を遂げたことに目を向けさせる。

2 学習課題の提示

- ・学習問題を板書するなどして提示する。

「国際社会で、日本人はどのような活躍をしたのでしょうか。」

3 番組視聴1 ワークシート1 (10分)

- ・番組を試聴し、北里柴三郎の国際的な活躍について分かったことをワークシート1に記入する。
- ★近代科学の面で世界的な業績が認められ始めたことを理解させる。

4 番組視聴2 (後半) ワークシート2 (10分)

- ・野口英世の活躍について分かったことをワークシート2にメモする。
- ・野口英世について、知っていることを出し合ったり資料等を読んで分かったこと出し合ったりして話し合う。
- ★他のクリップなどを視聴し野口英世のエピソードに触れることで、人物の業績や生き方について共感的な理解ができるようにする。

5 学習のまとめ ワークシート3 (15分)

- ・北里柴三郎や野口英世の活躍が、日本が世界に認められるためにどのような役割を果たしたのかを考えて、ワークシート3にまとめ、話し合う。
- ★二人の業績と年表のできごとを線でつなぐなどして考えさせる。
- ・その他にも世界で活躍した日本人について教科書や資料集で調べて紹介し合い、科学や学問が発展した理由について話し合う。
- ★科学や学問の発展の背景には、全国にたくさんの小学校ができ、中学校や高等学校、大学が整えられたり留学生の派遣があったりしたことに気づかせる。



きたざとしばさぶろう のぐちひでよ
北里柴三郎・野口英世 ~世界で活躍した日本人~

くみ なまえ

学習課題

「国際社会で、日本人はどのような活躍をしたのでしょうか。」

<条約改正の歩み>

1853年	ペリーが来航する
1858年	日米修好通商条約を結ぶ
1868年	明治新政府が成立する
1871年	岩倉使節団が外国をおとすれる
1883年	鹿鳴館ができる
1886年	ノルマントン号事件が起こる
1889年	大日本帝国憲法が発布される
1894年	イギリスとの条約の一部を改正する (治外法権)
1894~ 1895年	日清戦争
1902年	日英同盟を結ぶ
1904~ 1905年	日露戦争
1910年	朝鮮(韓国)を併合する
1911年	アメリカとの条約を改正する (関税自主権)

1 北里柴三郎についてわかったこと

- ・1853年生まれ(江戸時代)
- ・熊本県の庄屋の家に生まれ、藩校に学ぶ。
- ・家族がコレラで亡くなったことがきっかけで、医学校に進み医者になる。
- ・ドイツに留学し、破傷風の研究をする。
- ・世界で初めての血清療法を開発する。
- ・帰国後、伝染病研究所を設立し、志賀潔などたくさんの研究者を育成。
- ・弟子からドンネル先生と呼ばれた。

2 野口英世についてわかったこと

- ・1876年生まれ(明治時代)
- ・福島県の農家に生まれ、小中学校に学ぶ。
- ・いろりに落ちてやけどした左手の手術をきっかけに医者になる。
- ・伝染病研究所で北里の弟子として働く。
- ・アメリカで研究し、へび毒や黄熱病の研究で世界的に注目される。
- ・千円札に肖像が使われている。

北里や野口らの活躍は、日本が世界の中で認められるためどのような役割を果たしたのでしょうか。

- ・憲法をつくり国会を開設して近代化を進めたことや日清戦争や日露戦争に勝ったことで外国に日本の力が認められた。
- ・二人の外国での活躍で、日本がおくれていると思っていた世界の国々は、日本を見る目が変わったのではないかと思います。
- ・政治や軍事だけでなく、医学でも日本人の研究が認められたことが、条約改正にもつながったと思います。
- ・日本に学校ができて教育が広まり、科学や学問が発展していることが世界の国々に認められるきっかけになったと思います。

